

平成27年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成27年4月～平成28年3月

1. 学校概要

学校名 静岡県富士市立岩松北小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 中高一貫教育 高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

所在地 〒416-0901
静岡県富士市岩本123-1

E-mail pc-iwamatukita@div.city.fuji.shizuoka.jp

Website _____

児童生徒数 男子 345名 女子 337名 合計 682名
 児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか (地域理解・キャリア教育)

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について

ア 校内での取組について

① 度当初の職員研修

新年度になり、ESDについての研修を行った。ESDのねらいやこれまでの実践についての説明、ESD世界大会や多摩第一小学校に参加し得てきた内容についての報告などを行った。新しく赴任した職員にESDについての理解を図るとともに今まで本校に勤務していた職員にも改めてESDへの取組を意識できた。

② 全校児童への意識付け

校長が年度当初の全校朝礼で、本校が静岡県の公立小学校唯一のユネスコスクールであり、その大切な使命を果たす学校であることを、動物の写真やユネスコのマークなどを見せたり、テーマソングを聴かせたりしながら話をした。【資料1】

② ESDカレンダーの作成

本校では、総合的な学習の時間や生活科を中心にESDに取り組んでいる。学年に大きなテーマはあるものの具体的な内容と構想は各学級で考えていく。そのため、各学級ごとのESDカレンダーを6月末を目途に作成する。この作業により、年間の見通しが立ち、他教科との関連も可能な限り考慮できる。

③ 実践

- ・ 1年：身近な自然・身近な地域
- ・ 2年：地域の様子と生活
- ・ 3年：地域の人々の暮らし（自然・食育・伝統文化）
- ・ 4年：自然と環境（環境・自然・地域・文化・安全）
- ・ 5年：さまざまな人との交流（生命・交流・福祉・食育・地域）
- ・ 6年：自己の生き方（キャリア教育・国際理解・伝統文化・地域貢献）
- ・ 特別支援学級：自立と交流（生活・自然・交流・地域）

④ 本年度の各学級の取組紹介

夏休み中に研修の時間を取り、各学級の本年度のESDカレンダーと活動の見通しやねらい等について全職員に紹介した。質問や助言等を受け、よりよいものに改善していった。

⑤ ESDカレンダーの振り返り

各学級のESDカレンダーに、変更点や留意点などを書き込み、次年度の資料とするために、冊子として残していく。

⑥ ユネスコスクールだよりの発行

本年度の各学年・学級の取組について保護者や地域に向けて発信した。知ってもらうことが、理解と協力を得ることに繋がると考えている。

イ 外部との連携等について

①ユネスコスクール全国大会への参加

東京で行われたユネスコスクール全国大会へ、校長、主幹教諭、ESD主任の3名が参加した。それぞれの部会で課題をもって話し合いに参加し、有意義な情報を得ることができた。帰校後、全職員に報告をした。

②静岡大学生の卒業論文への協力

ユネスコスクールとESDに関する卒業論文を書く学生に、本校の取組概要の説明や授業公開、指導案の提供などの協力を行った。

③静岡大学が主導するコンソーシアム事業への協力

静岡大学が静岡県に築こうと考えているコンソーシアム構想に賛同し、今後ユネスコスクールの交流やESDを広める事業に協力していくことを決めた。

④季刊誌『教師の広場』（静岡教育出版社）への投稿

本校のESDの取組を「グローバル人材育成」の視点から意味づけ・価値付けをして投稿した。【資料1-1, 2】

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

)

ユネスコスクールについて

岩松北小学校は、ユネスコスクールです。これからユネスコスクールについての自慢話をします。

今、みんな、外で楽しく遊んだり、運動したりできる。

季節ごとにきれいな花が咲くこと。

きれいな水を飲むことができる。

寒いときはストーブで身体を温めることができる。

学校があって勉強ができる。

世界の自然の中には、象やキリンやパンダ、ライオンなどいろいろな動物がいる。

今は、ふつうに当たり前のことです。

いつまで、そうしたことが続くのでしょうか？

空から身体に悪い毒が降ってくるようだったら外では遊ばません。

水が放射能で汚れていたら水は飲めません。

世界中の石油を全部使ってしまったらストーブに燃料を入れられません。

戦争で爆弾が落ちてくるようなところでは学校に行くことさえできません。学校の建物も壊されるかも知れません。

森の木を切りや草原を畑にしてしまったら動物たちは絶滅していなくなります。

そんなひどい地球にならないように、今の私たちはどうしたらいいのか。

資源をやたら使わないように、リサイクルのために缶やペットボトル、古紙を集めること

友達と仲良くしたり人のために助け合ったりすること

水を無駄に流さないこと

使っていない教室の電気を消すこと

思いやりの心で人に優しくすること

そうした、小さな事をみんながやっていくことが大事だよって勉強している学校

人と助け合うことが大事だよってわかって、がんばっている学校

そういう学校が、ユネスコスクールなんです。

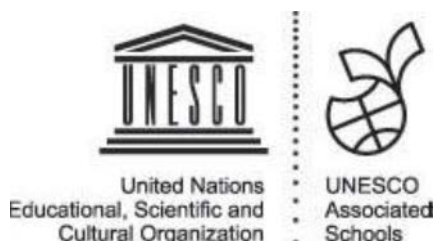
では、ユネスコスクールはどれだけあるのでしょうか？

富士市には27校の小学校があります。その中で、岩松北小学校だけです。

では、静岡県ではどうでしょう。静岡県には、公立小学校510校ありますが、その中で岩松北小学校だけです。

それを、世界のユネスコが認めてくれているのです。

一人ぼっちかという、そうではありません。日本では幼稚園、小学校・中学校・高等学校及び教員養成系大学913校、世界181か国で約10,000校がASPnetに加盟して活動しています。



みなさんは、このマークを見たことがありますか？

これならわかるかな？

これは、岩松北小学校がユネスコスクールとして認められた証拠の看板です。

2013年4月23日に認められましたから、丸2年たったところです。

ユネスコは、この地球に住む人みんなが、学校に行けて、戦争や争いごとの苦しみがなく、文化的な豊かな生活ができるようにしようとする組織です。

そのユネスコに認められているのだから、

ユネスコスクールとしての勉強、つまり平和な世界がずっと続くための勉強をESDと言います。

この曲を聴いたことがありますね。

これは、ESDのテーマ曲です。

僕らは世界の一粒の命

富士山、雲の上、雪景色と山々、こんな世界がいい

同じ空の下で争うのは止めよう

大自然にありがとうと言える未来をつくろう

世界に認められているのですから、それを守っていきたいと思います。これは、岩松北小学校の自慢ですから。ちゃんとできていないと、ユネスコスクールではなくなってしまうのです。

自然を大事にし、人と助け合い、平和な社会をつくる、そういう自慢を大事にしましょう。

私たちは、ユネスコスクールの一人一人です。

グローバル人材育成への取り組み

～ESDを通して地域を大事にし、
世界に思いをはせる小学生の育成を目指して～

富士市立岩松北小学校 加藤賢一

●研究実践のねらい●

今の社会において、グローバル人材の育成は急務である。ただ外国語を流暢に話せるだけではなく、世の中の情勢を世界規模で考えていくことで本当のグローバル人材になる。小学校現場では、どのような教育をしていけば世界に通用する子どもが成長していくのかを考えなくてはならない。本校で行ってきたESD（持続可能な発展のための教育）を取り入れた活動がグローバル人材育成につながるものと考え、その実践の一部を紹介する。

はじめに

平成23年度から外国語が小学校現場に取り入れられるようになり、5年目を迎えている。外国語を小学生のうちに学習することでコミュニケーション能力の素地と初歩的な英語の運用能力を養っている。しかし、これだけでは、グローバル人材の育成はできない。文部科学省は、グローバル人材に必要な要素として、以下の三つを位置づけている。

- ① 学力・コミュニケーション能力
- ② 主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感
- ③ 異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティ

本校は、平成23年度からESDを研修の柱に据え実践を重ねてきた。1、2年生では生活科、3年生から6年生までは総合的な学習の時間。本校では「けやき学習」というを中心に取り組み、平成25年度にユネスコスクールに認定された。ESDの育もうとしていく力には、多様性の尊重や人間の尊重に代表される持続可能な発展に関する価値観、多面的かつ総合的なものの見方などの体系的な思考力、コミュニ

ケーション能力、などグローバル人材育成の求めているところと重なる部分が多い。また、学びの視点を、世界に広げることや20年後にこうあつてほしい世界をイメージして今を見つめることは、ESDの大きな特徴である。つまり、ESDの考え方を取り入れた学びをしていくことが、グローバル人材育成につながると思える。

実践内容

(一) けやき学習とESDカレンダー

本校のけやき学習は、ESDの考えのもと、教材や領域、家庭や地域、過去や未来と今をつなぐことを合い言葉にしている。そして、子どもの思考の流れや関心に沿った単元構想をクラス単位で考え実践している。地域や世界に目を向け、生活の中から課題を見つけ、その課題を自らの手で解決し、さらに発信していく。けやき学習は、さまざまな教科と関連させ、ダイナミックかつゆったりと時間をとって進めている。自分たちが、調べてみたいこと、疑問に思ったことを、自分たちの手で解決していくことが、将来予期せぬことが起こったときに、適切に対応する能力へと発展していくと考えている。

また、クラスごとで「ESDカレンダー」というものを作成している。これは教科横断型の学習にし、学習効果を高めるとともに、教育活動全体でESDを進める意識を高めることになる。また、年間の見直しをもつことができるため、ねらいを十分に達成する活動になる。子どもの思考の流れに応じた構想を、余裕をもつて変えていくためにも有効である。

第5学年 2組 ESDカレンダー

教科領域	4月	5月	6月	7月	8月	9月
国語	「旅のノート」を制作する	「おがねのついで」を制作する	「おがねのついで」を制作する	「おがねのついで」を制作する	「おがねのついで」を制作する	「おがねのついで」を制作する
算数	小数と百分のしくみ	小数のわり算	小数のわり算	小数のわり算	小数のわり算	小数のわり算
理科	植物の生長と成長	植物の生長と成長	植物の生長と成長	植物の生長と成長	植物の生長と成長	植物の生長と成長
社会	わたしのまち	わたしのまち	わたしのまち	わたしのまち	わたしのまち	わたしのまち

富士市の郷土料

富士市の郷土料に関する学習活動の概要図。各単元（国語、算数、理科、社会）とESDのねらい（持続可能な発展のための教育）との関連性を示している。

ESDカレンダーの一部

(二) 3年生の実践

社会科で、地域探検に出掛けた。学区内を歩いてみると、山のふもとまで茶畑が広がっていることに目がいく。地元の茶農家に茶摘み体験をさせてもらったことをきっかけに、自分たちもお茶を作ったり、いれて飲んだりしたいと子どもたちは思った。



J Aの方や茶業組合の方の協力を得て、手もみ茶作りやお茶のいれ方を学んだ。保護者へのお茶会を経て、さらに多くの人に岩北のお茶を飲んでもらえるのかを考えた。パッケージを工夫したらどうか、CMを自分たちで作りたい、お茶に合うお菓子を作ってみたいなど、自分たちにできそうなことを考え実現していった。実際にお茶屋に向き、自分たちが作ったラベルを貼った商品を置いていただいたり、地元のお菓子屋さんに作り方や工夫、作る上での努力等を教えていただいたりした。

子どもたちはこの活動を通して、徐々にお茶が好きになり、家で家族のためにお茶をいれる子も出てきた。また、自分の生きる地域のすばらしさやそこ

の生活の元になり、未来にもつながっていることを実感できた。さらに、この学習で学んだことを基に世界へと目を向けさせた。砂漠に住む人、南の島に住む人、世界中どここの土地であっても人々が歴史をつくり、今の文化や生活が成り立っていることへ思いをはせることができた。

(四) 他校との交流

また本校は、福島県のユネスコスクールである福島県須賀川市立白方小学校と交流をしている。ユネスコスクールであることをきっかけに、遠くの人と互いの活動を知らせ合ったりする活動を通して、地域の人々と抵抗なく関わったり、心を通い合わせたりする喜びを味わい、コミュニケーションをとることへの意欲や能力を養うことにつながっていると考えている。

(五) 地域への発信

学校では、地域の方々にも多くの協力をいただいている。地域に出て行ったり、地域の方に授業に入っていたりする機会はとも多い。岩松北地区には、製茶工場、パン屋、J Aや郵便局、茶農家やみかん農家など、子どもの学びと関わることでできる施設や人材がとても豊富である。この地域の方々

に生活する人々の魅力に触れたり、お茶離れが進む現実にも突き当たったりして、地元の特産物を大事にしていきたい、緑茶を飲む文化を将来につなげていきたいと、日本人としてのアイデンティティーを育むきっかけとなったと考えている。

(三) 5年生の実践

社会科の学習で富士川の雁堤のことを学んだ4年生の子どもたちは、何十年間もかけて岩松地区を富士川の氾濫から守るために努力した偉人がいたことを知った。5年生になると理科で流れる水のはたらきについて学習する。ここでは、数百年前の富士川の流れを再現し、災害を検証することで、岩松地区側に雁堤を造った理由を、体験を通して知ることができた。そして、このことを地



域の方々にも知ってもらおうと劇にして地域の方々に発信した。これらの活動を通して、郷土を愛し、自分たちの生まれ故郷をいつまでもすばらしい街として守っていききたいと感じることができた。学習している過去の出来事が、今生きている私たち

に学校の活動やその意義について知ってもらうことは、協力を得る上で大切なことである。そのための一つとして「岩北ユネスコスクールだより」を発行している。「岩北ユネスコスクールだより」で、ユネスコスクールとは何かということと同時に、けやき学習の途中経過や生活科の活動を紹介することでESDとはどのような教育なのかを知っていただくことにした。学校側から情報を公開することで少しでも学校教育に対する理解を深めていただくきっかけになればと願っている。

おわりに

オックスフォード大学教授が2013年に、「今後20年間ですべての仕事の47%が自動化される可能性がある」と推測した話題になった。今の小学生が就職するころには、私たちの想像することができない社会が待ち受けているかもしれない。そのような時代であっても、時間的にも空間的にも広い視野で、柔軟に問題に対応でき、解決していける人こそがグローバル人材になるであろう。今後もESDの考え方を進め、世界に目を向け、自らの手で未来を創っていく子どもたちを育てていきたい。